

(様式1)

自己評価表

愛媛県立今治西高等学校定時制
学校番号 14

教育方針		重点目標			
知・徳・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を期する。		1 温かい人間性と豊かな社会性を身に付けさせる。 2 高い知性と豊かな創造性を養う。 3 強い意志とたくましい体力を培う。			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	・生徒の実態に応じて分かりやすい授業を実践し、授業満足度・理解度を85%以上とする。 A：85%以上 B：84～82% C：81%～79% D：78～76% E：75%以下 ・ICT機器を積極的に使用するなど授業改善を行う。	B	・生徒アンケートでは、「授業に満足している」と答えた生徒は92%で、昨年度より大幅に増加した。全体的に授業に対する評価は向上している。しかし、授業が理解できていると答えた生徒は、昨年度より増加したものの80%という結果であった。「授業などを通して、人とコミュニケーションをとることが以前よりできるようになったか」という質問に対しては、昨年度より評価が下がっている。	・生徒のニーズに応じた授業内容を研究し、興味・関心を高め、確かな学力が定着する学習内容を工夫する。 ・生徒の習熟度を見極め、授業の進め方や課題の出し方など個に応じた学習内容を工夫する。 ・ICT機器の使い方を工夫し、授業を通して自分の意見や考え方・感じ方などを人に伝える活動の機会を増やす。
	新学習指導要領に対応した指導の改善	・学習の評価規準を有効に活用し、教員と生徒が自身の学びを改善できるようにする。(教員と生徒の意識差をなくす。) A：0% B：1～3% C：4～6% D：7～9% E：10%以上	B	・教員アンケートから、教員の授業の工夫については80%、自主性を引き出す授業の工夫については94%。生徒の評価は教員の評価を上回り、分かりやすい授業の工夫についても94%の評価であった。生徒の主体的な授業参加については88%であった。 ・教員の自己評価が向上するよう工夫・改善が必要である。	・授業アンケートを効果的に機能させ、授業改善に役立てる。 ・各単元で実施する振り返りを分析して授業改善に役立てる。 ・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、評価の観点について客観的な評価ができるよう、工夫する。
	個別学習指導の充実	・習熟度・進路希望に応じて個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。	A	四年制大学への進学希望者や短期大学・専門学校への進学希望者に対する進路指導を適切に行うことができた。	・進路に応じた指導の充実を図り、生徒の進路希望に寄り添いながら個々の学力を伸ばす。
生徒指導	規範意識と基本的生活習慣の確立	・年間出席率95%以上、皆勤率80%以上を目指す。 A：95%以上 B：80%以上 C：94～92% D：79～75% E：91～89% F：74～70% D：88～86% E：69～65% E：85%以下 F：64%以下 ・保護者との連絡を確実に行う。	B	・1月までの出席率は92.9%、皆勤率は88.9%であった。皆勤率の目標は達成できたものの、出席率は達成できなかった。一部の生徒に欠席や遅刻が集中している状況があるため、該当生徒に対するきめ細かい指導・支援が必要である。 ・生徒の学校での様子や出席状況など、保護者と連絡を密にして情報を共有しながら支援に努めている。	・遅刻・欠席の目立つ生徒に対して、基本的な生活習慣が身に付くよう粘り強い指導・支援を継続する。 ・生徒の様子を常に観察しながら適切な声掛けを行うなど、登校しやすい環境作り・雰囲気作りを徹底する。 ・担任を中心に、生徒の様子や出席状況など、情報の共通理解を図りながら、全教職員が支援できる体制を整える。 ・保護者懇談会などを通して、連携をとりながら生徒の健全な育成に努める。
	交通安全意識の高揚	・登校指導を実施し、交通指導を行うことで交通事故0件を目指す。	C	・原付バイクで登校している生徒の登校中の事故が1件発生した。自損事故ではあるが、足にけがを負った。	・特に夜間の下校時には、細心の注意を払うよう個別に声掛けを行うなど、生徒に注意喚起する機会を増やす。
	学業と就業の両立支援	・個別面接を年間6回以上行う。生徒の状況に応じて、個別に話す場を設定する。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	A	・定期的な個別面接を含め、概ね6回以上実施するなど、生徒理解に努めることができた。面接週間以外でも、担任を中心に気になる生徒には適宜声を掛け、面談を実施した。面談の中で、生徒の悩みや心配事などの相談に乗ることができた。	・面接週間や実施回数などは継続し、必要に応じた面談を通して生徒の理解に努める。 ・生徒情報など、適宜教員間で共通理解を図りながら生徒の支援にあたる体制を作る。
進路指導	学校行事・部活動の充実	・学校行事及び部活動の満足度90%以上を目指す。 A：90%以上 B：89%～80% C：79%～70% D：69%～60% E：60%未満	B	・「学校行事は楽しく参加できたか」というアンケート結果は、92%であった。しかし、部活動の充実度は82%で昨年度に比べ評価が下がっている。同様に教員も「充実させることができなかった」という評価をしており、今後改善していく必要がある。	・学校行事に関しては、前年踏襲に陥ることなく、生徒にとって魅力ある学校行事作りを継続する。 ・部活動に関して、「部活動の日」を設けるなど、継続した活動が実施できるよう取組を工夫・改善する。
	進学指導の充実	・三修制を選択した生徒の進路指導を効果的に行う。 ・保護者との連携を密にする。	A	・今年度は「物理基礎」「服飾手芸」を0限授業で開講し、学力の定着を図った。また、通信制の支援を効果的に行うことができた。	・さまざまな進路選択を提示することで、生徒が主体的に自分の生き方を模索できるよう進路指導の充実を図る。 ・個別面談・保護者懇談などを通して、進路実現できるよう支援する。
業務改善	就職指導の充実	・関係機関と連携し、進路実現に向けて講話や情報発信を積極的に行う。	A	・今年度は、外部の関係機関の協力を得ながら、進路ガイダンスや人権・同和教育の充実を図ることができた。	・関係機関との良好な関係を築き、生徒にとって有意義な講話やガイダンスなどを積極的に取り入れ、進路実現はもとより生きる力を育む工夫をする。
	職場環境の整備	・ワーク・ライフ・バランスの適正化を図り、休暇の取りやすい職場環境を整える。 ・教員間のコミュニケーションの充実を図る。 A：90%以上 B：89～80% C：79～70% D：69～60% E：60%未満	B	・夏休みや冬休みを中心に、テレワークを奨励し、仕事に取り組みやすい環境づくりを行った。また、年休や特別休暇などを取りやすい雰囲気づくりに努めた。 ・教職員の満足度は80%であった。	・教職員が互いにコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境を整える。 ・共通理解を図り、互いの仕事を補助し合える仕組みを整える。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。